

- 事例1 ●事例タイトル…認知症の進行により近隣トラブルや夜間徘徊の問題が出てきており周辺住民の不安が大きいが家族にその認識がないケース
- 事例提出理由…認知症高齢者と家族がその疾患の特性により地域から孤立するケースが散見される。各地域、圏域においてどのような支援や体制作りが成されているのか知りたい。
- 検討課題（何を検討したいのか）…①家族の理解を得るためにどのようなアプローチがあるか②認知症になっても今までのように暮らしていくための地域作りはどのようなものがあるか。

1. 事例の概要 認知症、前頭側頭型認知症。精神科受診中。要介護3

圏域内のデイサービスを週2回利用しており、他利用者には近隣在住の知人がいる。近くのスーパーに毎日買い物に行き同じものを購入する。店員に1時間以上話しかけ、長時間レジの近くにいる。3年程前、認知症のある知人と買い物途中に会い、散歩に誘い、自身は帰宅したが知人は一時行方不明となった。知人の家族よりデイサービスに不安の訴えがある。同居の夫も認知症である。今年8月、夫入院し長男妻やいところがほぼ毎日食事を届けるが食べずに腐らせてしまう。服薬自己管理できず長男妻が食事と同時に渡すが置いたままで飲めていない。頭髮の汚れや尿臭あり自宅での入浴はできていない。夜間にエプロンと下衣は下着で出歩いているところを近隣住民が見かけている。足を引きずる特徴的な足音で本人と判断される。明るい人柄だったが、デイサービス利用時に他利用者を突然怒鳴るなどの易怒性も出現している。夫の入院がきっかけとなり、認知症の急激に進行しておりケアマネジャーは長男妻にサービス利用の追加を勧めているが、長男妻は「特に困っていない」話し、長男も無関心である。今年10月、自宅からいつものスーパーとは逆方向のコンビニで道に迷っているところを訪問介護事業所職員が発見、事業所へ一時保護の後、包括へ連絡が来る。登下校中の小学生に話しかけたり怒鳴っているところを目撃されている。

2. 本人の状況等

年代	80歳代	性別	女性
家族関係	<p>[ジェノグラム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夫と二人暮らし。認知症のため家事全般が疎かになり夫が全て行っていた。 ・夏に夫が入院して以降、独居となる。 ・同敷地内に長男夫婦が家を建て居住している。 ・長男嫁は食事を届けたり薬を手渡すなど協力的ではあるが、食べているか、服薬できているかは確認していない。 ・長男夫婦、特に長男は地域との関わりが疎遠である。 <div style="text-align: center;"> <p>夫（入院中）</p> <p>長男夫婦（同一敷地内の別宅在住）</p> <p>3名とも県外在住</p> </div>		

地域特性	<ul style="list-style-type: none">・近隣に小中高の教育機関がある。子育て世帯が生活している。・近くにスーパーやコンビニがある。広い駐車場があり、大人が子供との待ち合わせなどに使うため、自然と子供との接触機会は多くなる。・近隣住民や民生委員が気にかけて本人の動向を心配している。長男夫婦にも気づいたことは意見している。
------	---